

## 6 輸出に支えられ好調に推移した生産活動

本県の実業活動は、2000年においては輸出主導で堅調に推移したが、01年に入ると、米国経済の減速による輸出の後退、設備投資を始めとする国内需要の伸び悩みにより生産活動は停滞した。しかし、02年に入ると、海外景気が徐々に回復したことにより、輸出が増加し生産回復に動きがみられた。03年前半は概ね横ばいで推移していたが、後半になりその回復が顕著となった。

2003年の鉱工業生産指数は98.2で、前年に比べ一般機械工業、輸送機械工業、鉄鋼業等12業種で上昇し、一方、低下したものが繊維工業、プラスチック製品工業等8業種に止まり、前年比2.3%増となり2年連続の増加となった。

生産指数の動きを月別にみると、02年9月から03年4月まで8か月連続で前年同月を上回った。これは、輸送機械工業、一般機械工業、鉄鋼業などが好調に推移したことによる。03年5月以降、12月まで低下、上昇を繰り返した。03年末から04年6月にかけて各月とも大幅に前年を上回り、生産活動の回復傾向が顕著になってきた（図表6-1）。

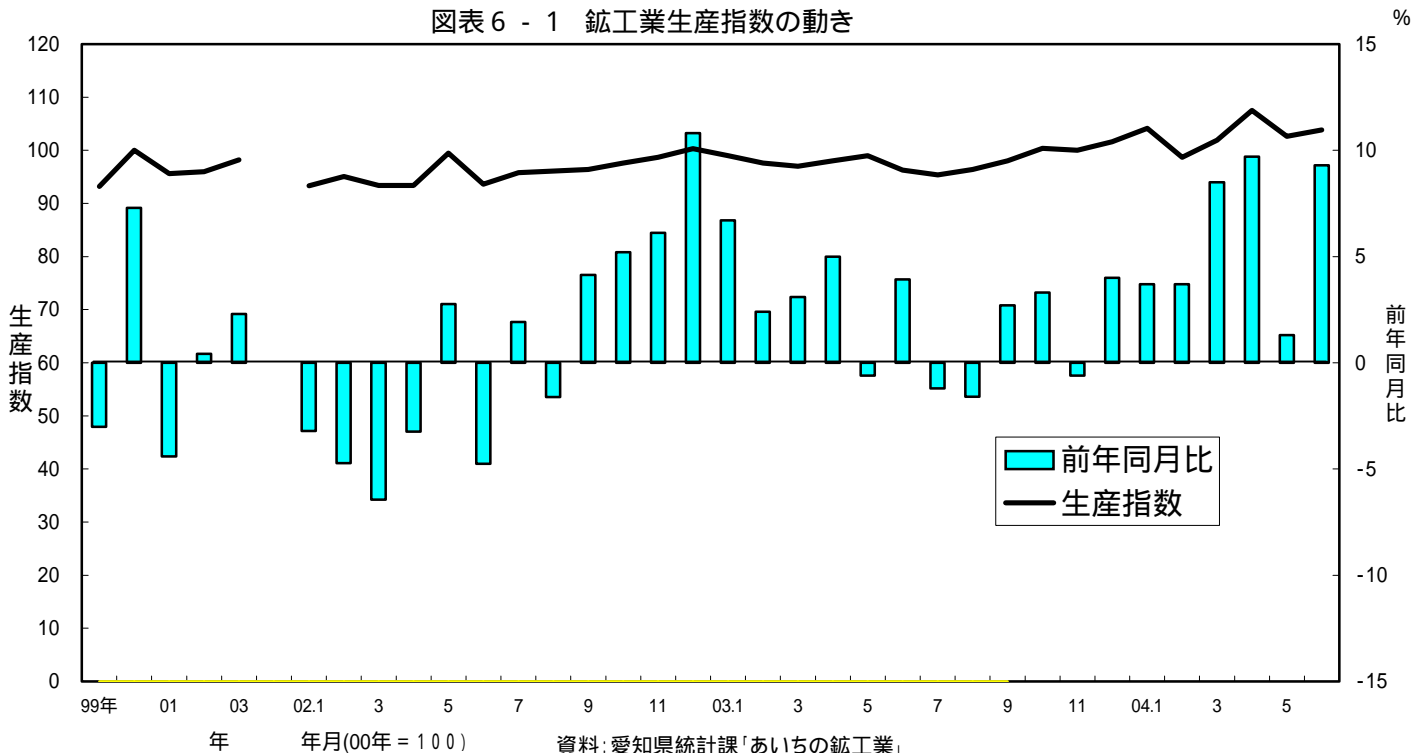
こうした動きを四半期別にみると、2001年10-12月期にボトムを脱し、02年1-3月期、4-6月期と減少幅を縮小し、7-9月期には前年同期比プラスに転じた。以降、03年7-9月期輸出の鈍化によりやや停滞したが、10-12月期から04年に入り、米国・中国向け輸出増に加え、設備投資も回復に向かい前年同期比の増加幅の拡大が続いた。

これを用途別にみると、消費関連項目については内需の弱さを反映して、00年の景気回復に寄与した耐久消費財は02年に上昇したものの、03年はわずかに前年水準を下回った。

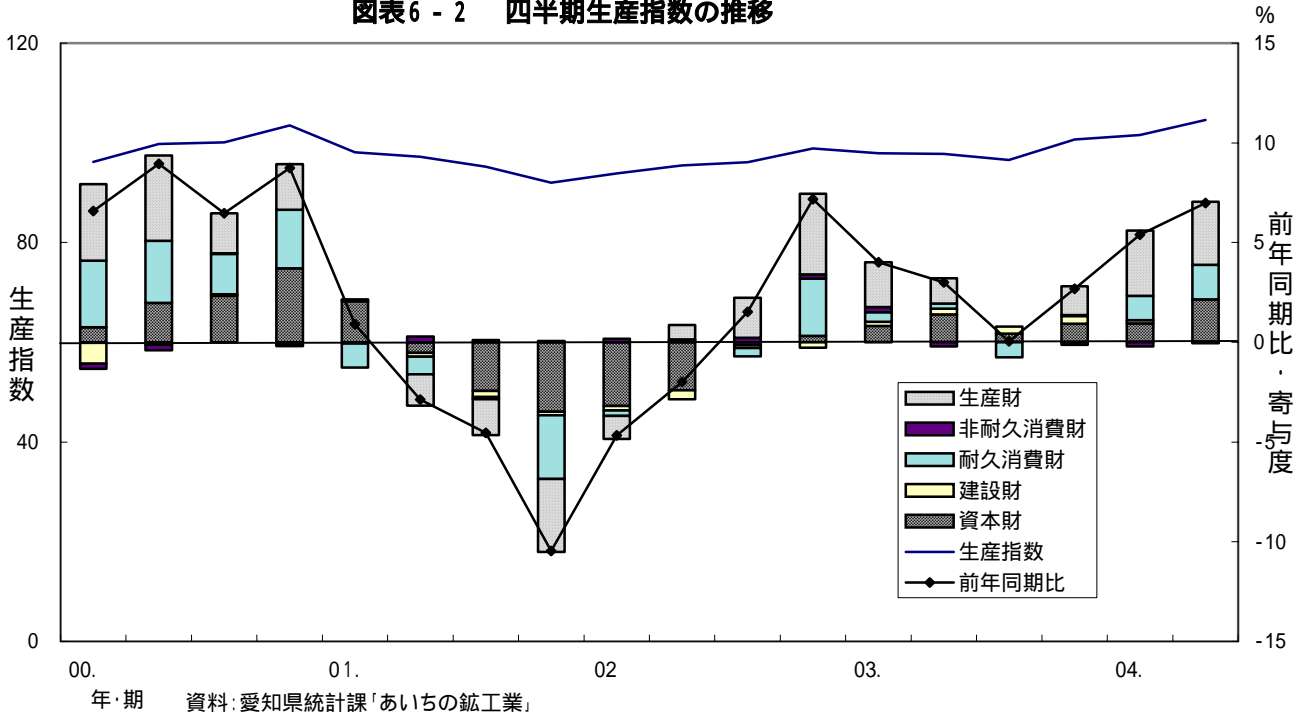
次に投資関連項目についてみると、建設財はウエイトとしては低いものの前年比増加し、資本財も、生産財と同様に02年後半から03年にかけての設備投資の回復により前年に比べ増加した。

このように消費関連項目の消費財の動きは、耐久消費財、非耐久消費財とも02年回復基調に転じたものの、03年個人消費の伸び悩み等により横ばいとなった。投資関連項目の生産財、資本財は生産活動の回復にともなって増加し、03年10-12月期に増加基調に入り、04年にさらに増加幅を拡大し、1-3月期、4-6月期と増加を続け、生産指数の増加に寄与した（図表6-2）。

図表6-1 鉱工業生産指数の動き



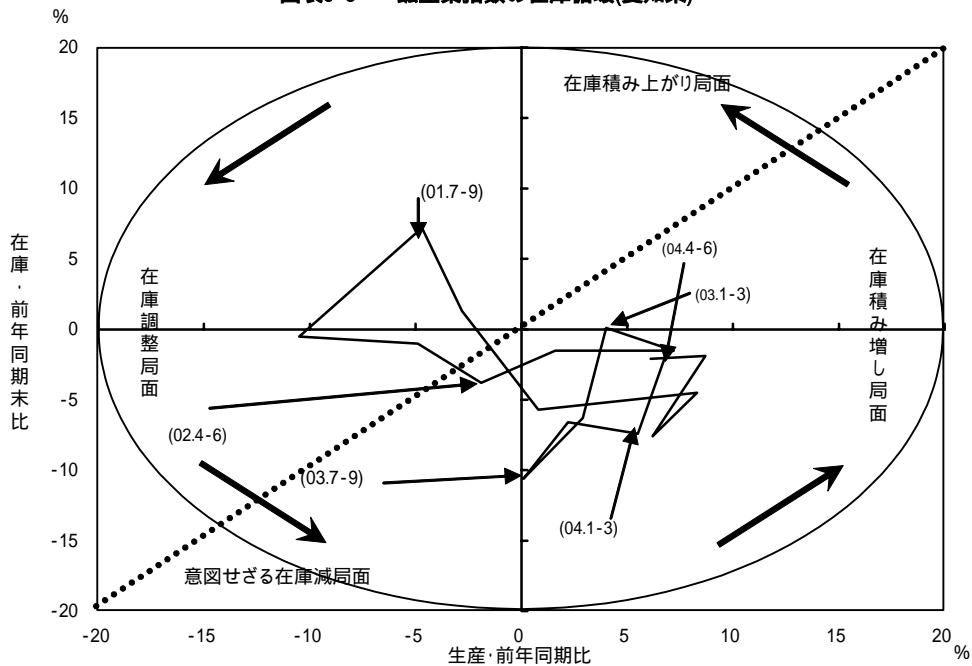
図表6-2 四半期生産指数の推移



次に、本県の生産と在庫の動きを在庫循環図で見ると2001年1-3月期には景気が後退期に入り、生産が減少し、在庫も減少した。01年7-9月期になり生産が更に減少し、在庫は上昇し以降「在庫調整局面」に入った。02年1-3月期、4-6月期景気回復に伴い生産が緩やかに増加してきたが、在庫は依然低水準にあり、横ばいで推移した。これは、景気

の回復にもかかわらず、依然デフレ下にあり、損失を恐れ在庫投資が抑えられたことによる。03年4-6月期、7-9月期にやや生産が伸び悩み再び「意図せざる在庫減局面」に入った。04年1-3月期に入り生産が回復し、ようやく「在庫積み増し」局面に入ったもののデフレの長期化により本格的な「在庫積み上がり」局面には至らなかった(図表6-3)。

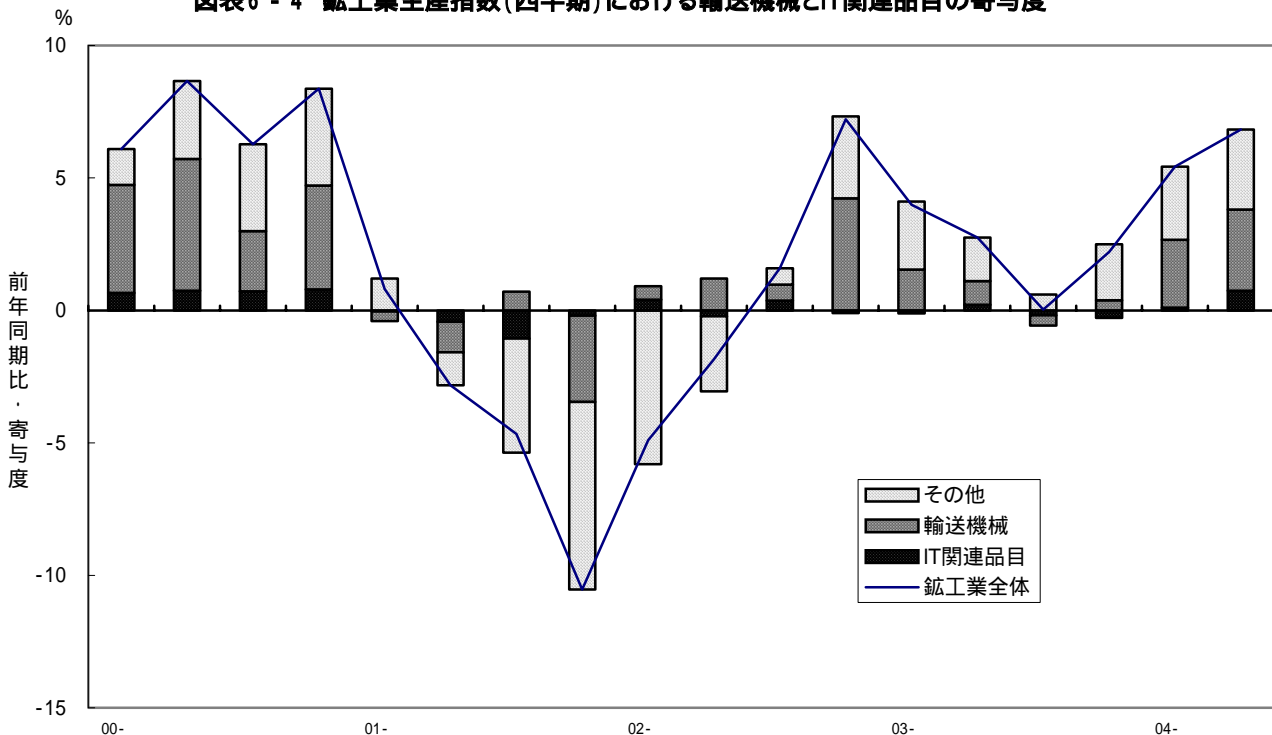
図表6-3 鉱工業指数の在庫循環(愛知県)



2001年・02年の生産の減少と回復に対して大きく寄与した輸送機械とIT関連品目についてみると輸送機械は本県の主力産業であり、そのウエイトがかなり大きい(00年基準鉱工業生産指数の38%弱)ため、生産の増減には恒常的に大きく寄与している。輸送機械の00年は年を通じて好調に推移していたが、01年1-3月期、4-6月期とマイナスで推移し、7-9月期プラスに転じたが、10-12月期大幅低下となった。しかし、02年1-3月期に入り、輸

送機械が回復し生産の対前年同期比の減少幅を縮小しボトムを脱した。その後も輸送機械を中心に順調に回復し、02年10-12月期には輸送機械が前年同期比大幅増となり、以後03年に入っても基調としては増加基調にあった。02年10-12月期以降パソコン等の国内需要の低迷により、IT関連品目は一進一退を繰り返したが、携帯電話、デジカメ向けのファインセラミックス機能材の伸びにより、大きな落込みはみられなかった(図表6-4)。

図表6-4 鉱工業生産指数(四半期)における輸送機械とIT関連品目の寄与度



注 IT関連品目とは、通信機械、通信・電子部品、電子計算機、ファインセラミックスの機能材の合計  
資料:「あいちの鉱工業」愛知県統計課

### 主要業種の動向

2003年は02年末から続いた本県の主力産業である輸送機械、一般機械が伸び前半好調に推移した。7、8月に一時減少したが、9月以降緩やかに回復を続け、04年に入り輸送機械、一般機械に電気機械が加わり回復基調が一層明確になった(図表6-5)。

(一般機械工業)

一般機械の2003年の生産指数は90.2で前年比11.4%の上昇となり3年ぶりに前年を上回った。

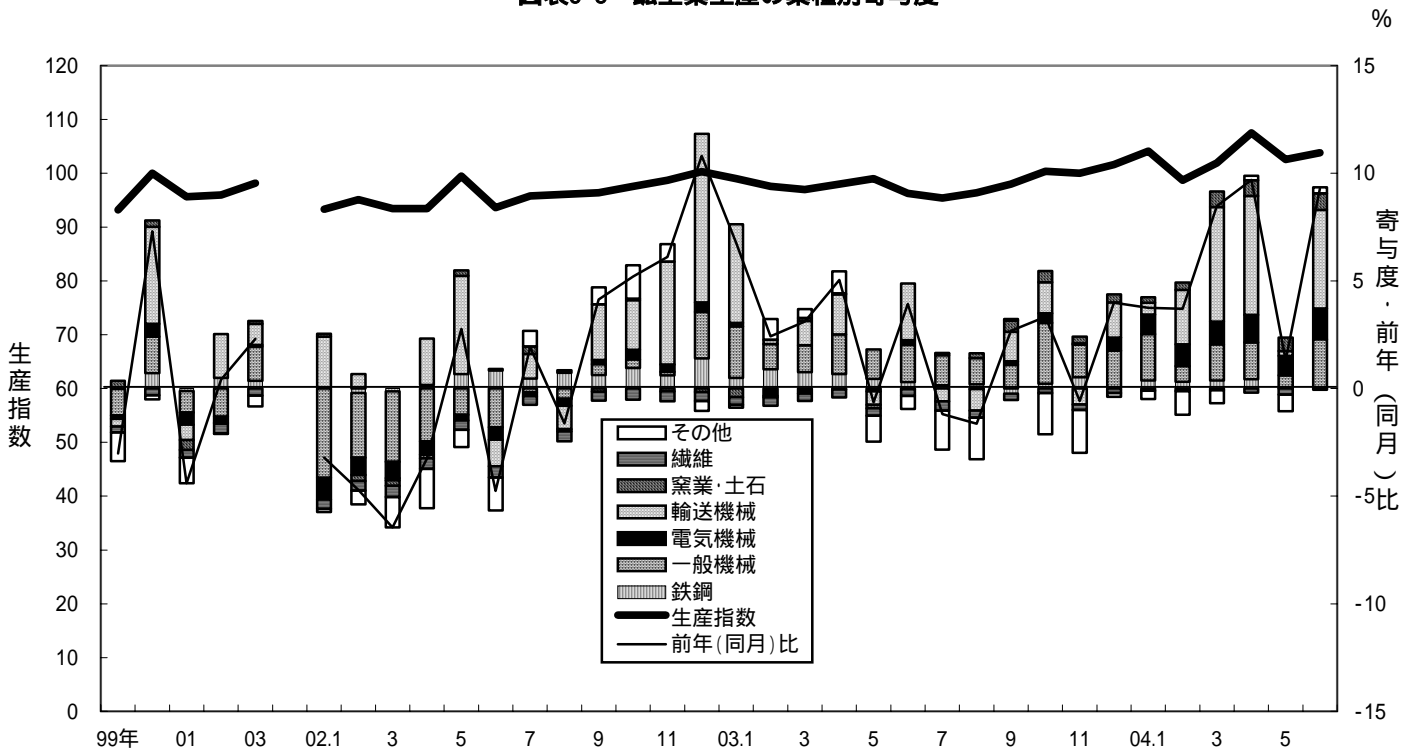
一般機械が年を通じて好調に推移したのは、製造業を中心に設備投資が緩やかに回復し、又アジア向け輸出の好調を反映して金属工作機械が前年比36.1%増、産業用ロボットが28.0%増、運搬機械20.1%増となったことによる(図表6-6)。

金属工作機械の受注動向を中部経済産業局の「金属工作機械受注状況」で見ると、自動車関連の設備投資の底堅さから自動車、一般機械、精密機械向けがそれぞれ前年に比べ8.0%、41.8%、48.9%増、国内受注で同21.8%増、また海外受注も中国、韓国

等のアジア向けが大幅に増加し、また米国向けも増加し、全体で同 30.0%の大幅増となり、国内受注、海外受注を併せた全体で同 26.0%の増加となった。04年に入り、1-6月期までの上半期は、企業側の設

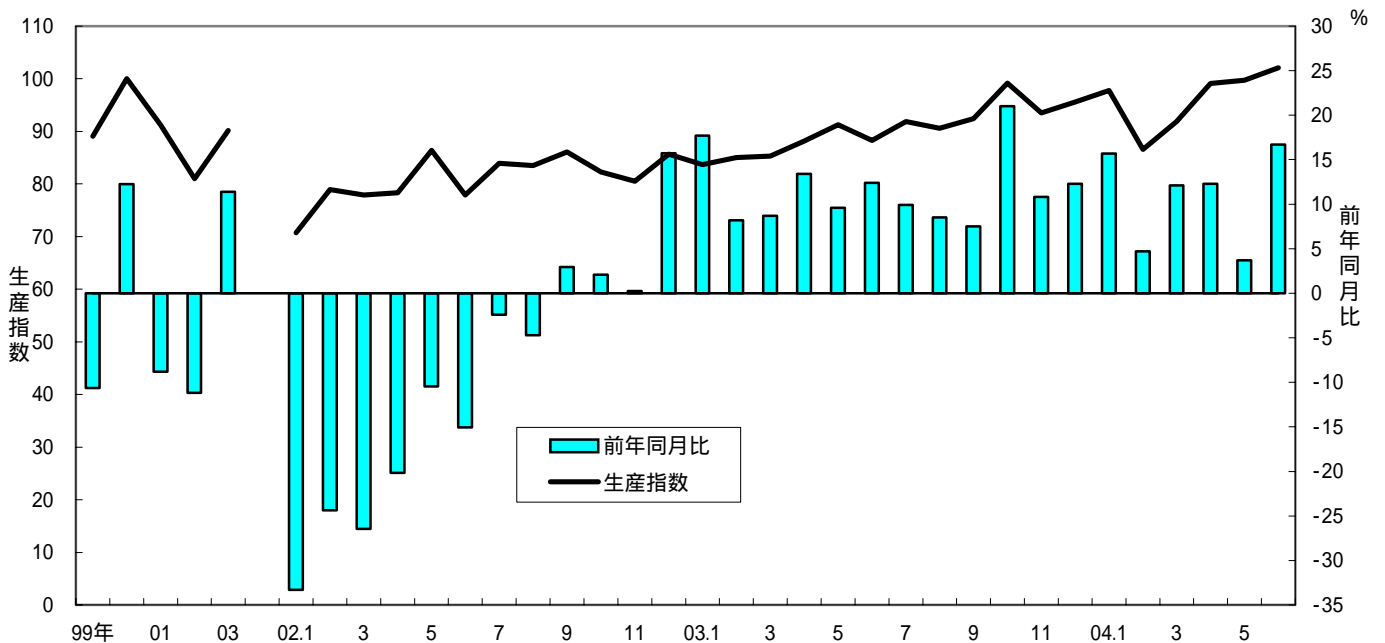
備投資の回復の継続、輸出の増加により、国内受注が前年同期比 38.0%増、海外受注が同 22.2%増となり、全体でも同 29.4%増と 03年に引き続き大幅に増加し、以降増加基調で推移した(図表6-7)

図表6-5 鋳工業生産の業種別寄与度



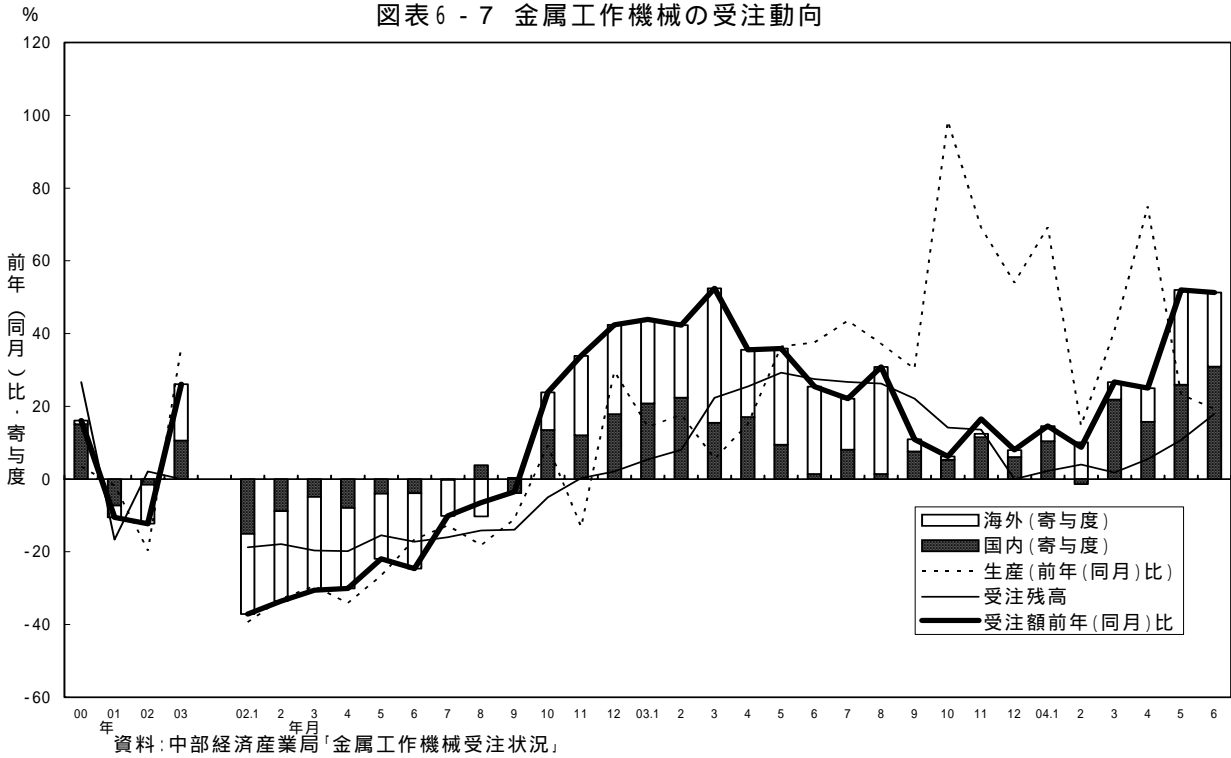
資料:愛知県統計課「あいちの鋳工業」

図表6-6 一般機械の動向



資料:愛知県統計課「あいちの鋳工業」

図表 6 - 7 金属工作機械の受注動向

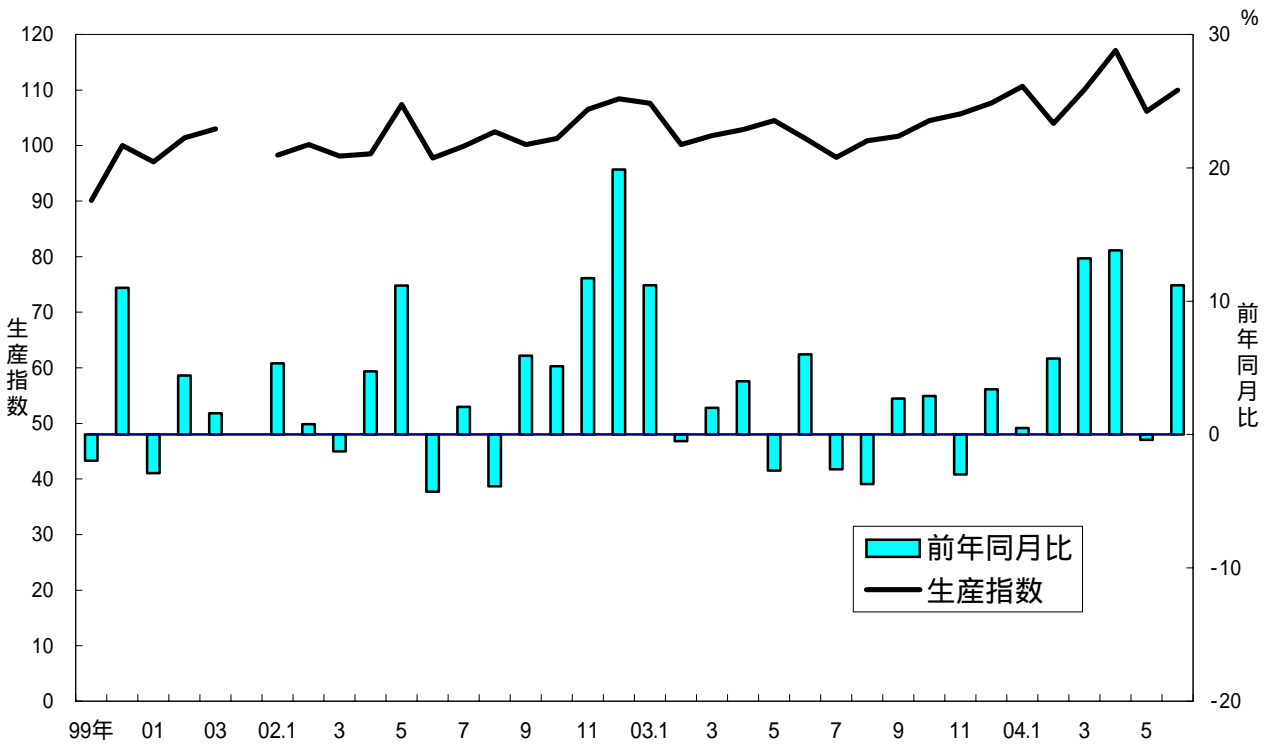


(輸送機械工業)

本県の基幹産業である輸送機械の 2003 年の生産指数は 103.0 で前年比 1.6%の上昇となり、2年連続で前年を上回った。

月々の動きをみると、03年の自動車は増加と減少を繰り返し横ばいで推移したが、ウエイトでは自動車の50%程度の自動車部品が年を通じて大幅増となり輸送機械全体を下支えした(図表6-8)。

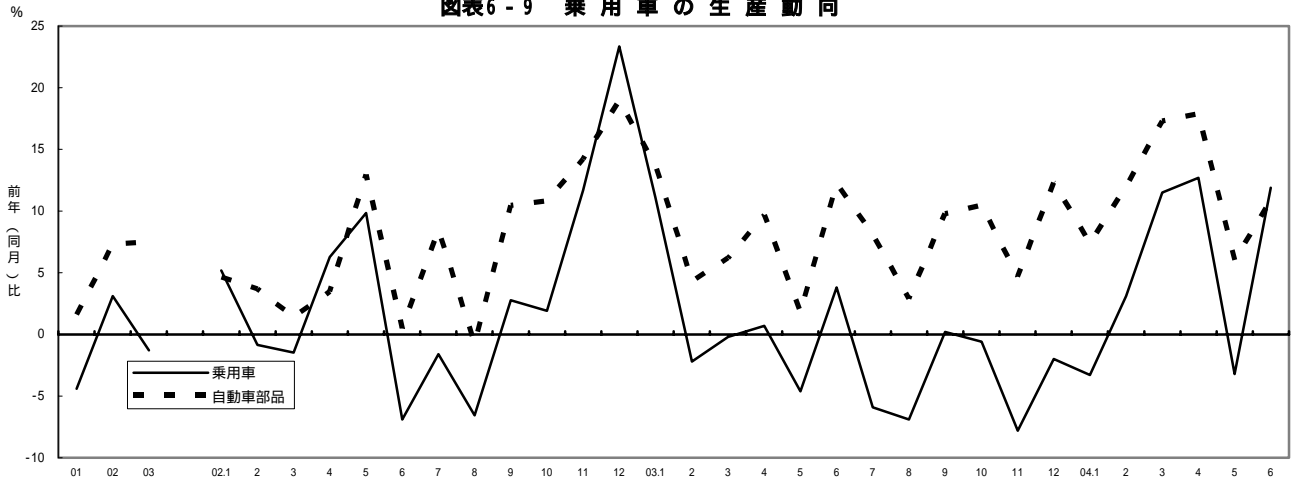
図表 6 - 8 輸送機械の動向



乗用車の動きをみると、02年10月から03年1月にかけての高原状態から個人消費の停滞感が徐々に表れ高額支出や不要不急の支出が手控えられたため03年2月、3月、4月、5月と低調に推移した。これは03年上半期02年同期の増加に寄与した小型車が需要一巡により不振だったことによる。6月にはミニバンの下支えにより、前年比プラスとなったが、7

月から12月の年後半はセダン等の伸び悩みから低調に推移した。04年に入ると新型ミニバンに加え国内向け高級セダンに動きがみられ前年を上回って推移した。一方、自動車用部品では、03年自動車が国内向けの伸び悩みで低調に推移したものの、国内、輸出向けいずれも好調だったことにより年を通じて前年比増で推移した(図表6-9)。

図表6-9 乗用車の生産動向



資料:愛知県統計課「あいちの鉱工業」

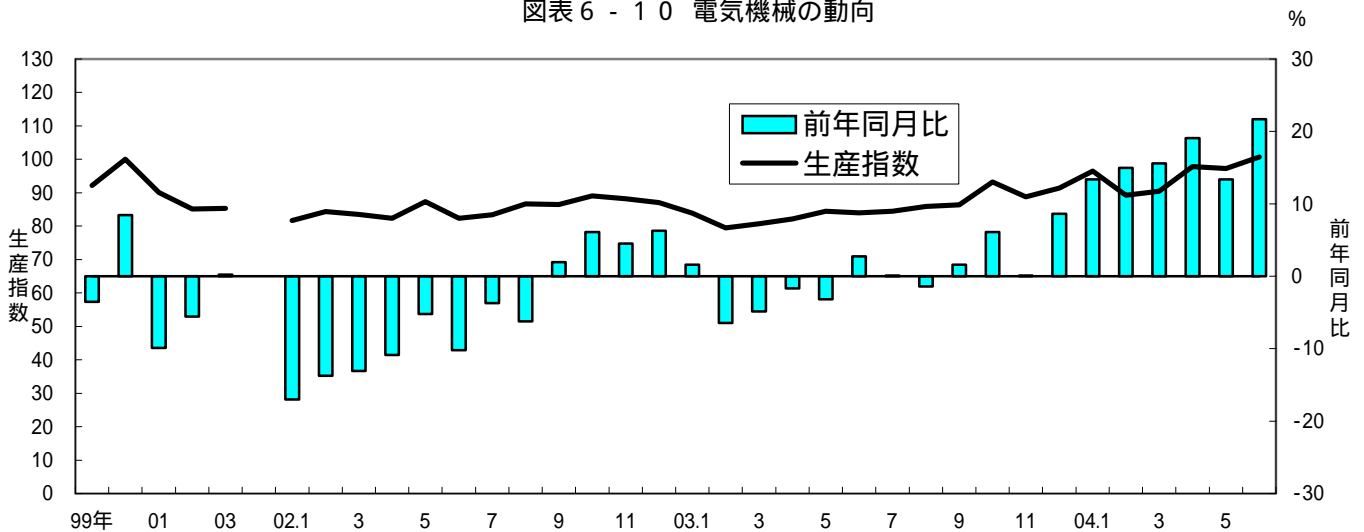
(電気機械工業)

電気機械工業の2003年の生産指数は85.3で前年比0.2%の増加となり、3年ぶりで前年を上回った。これはエアコン、洗濯機、テレビ等の民生用電気機械が02年に引き続き前年に比べ20.1%と大幅に低下したものの、内燃機関電装品始め開閉制御装置、

回転電気機械等の産業用電気機械が前年に比べ上昇したことによる。

これを月ごとの動きでみると、03年前半は家電の買替需要不振により低調に推移したが後半わずかに回復した。なお、内燃機関電装品は年を通じて好調で電気機械全体を下支えした(図表6-10)。

図表6-10 電気機械の動向



資料:愛知県統計課「あいちの鉱工業」

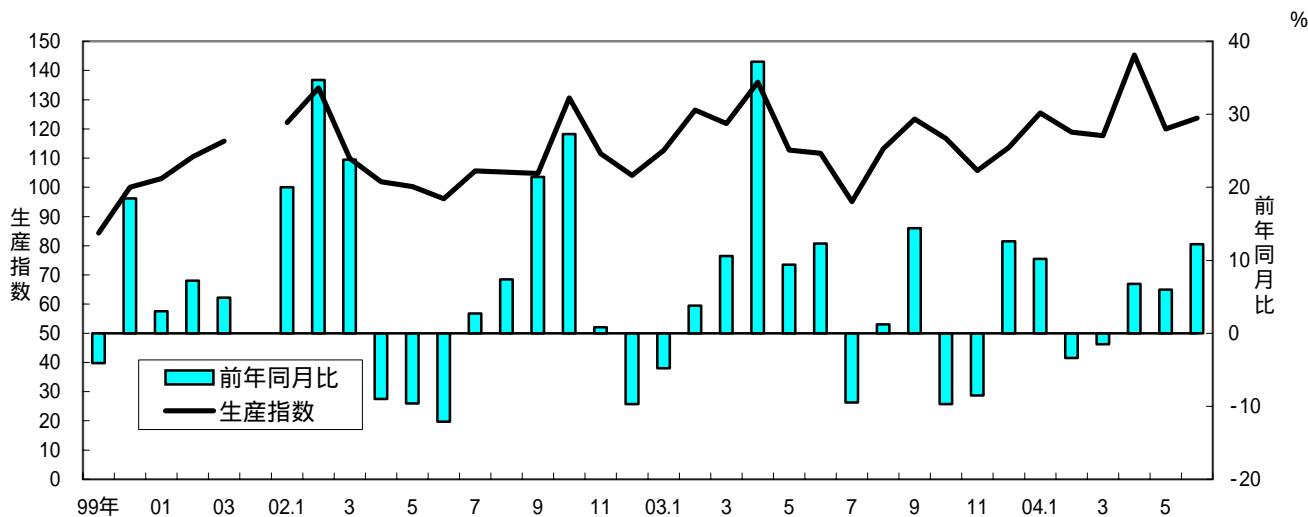
(情報通信機械工業)

2003年の情報通信機械工業の生産指数は115.8で、前年比4.9%増となり、4年連続で上昇した。

00年前年比18.5%増と急速に拡大を続けたIT関連は、01年、02年パソコン等の需要の一巡により、増加幅を減少させた。03年に入り前半は大幅増で推

移し、以降ほぼ隔月に増減を繰り返す不安定な動きをした。これは高性能携帯電話、デジタルカメラ等民生用電子機械は年を通じて好調に推移したが、ウエイトの高い電子計算機が1月、2月、3月と高機能機への買替えにより伸びたが、03年半ば以降低調に推移したことによる(図表6-11)。

図表6-11 情報通信機械の動向



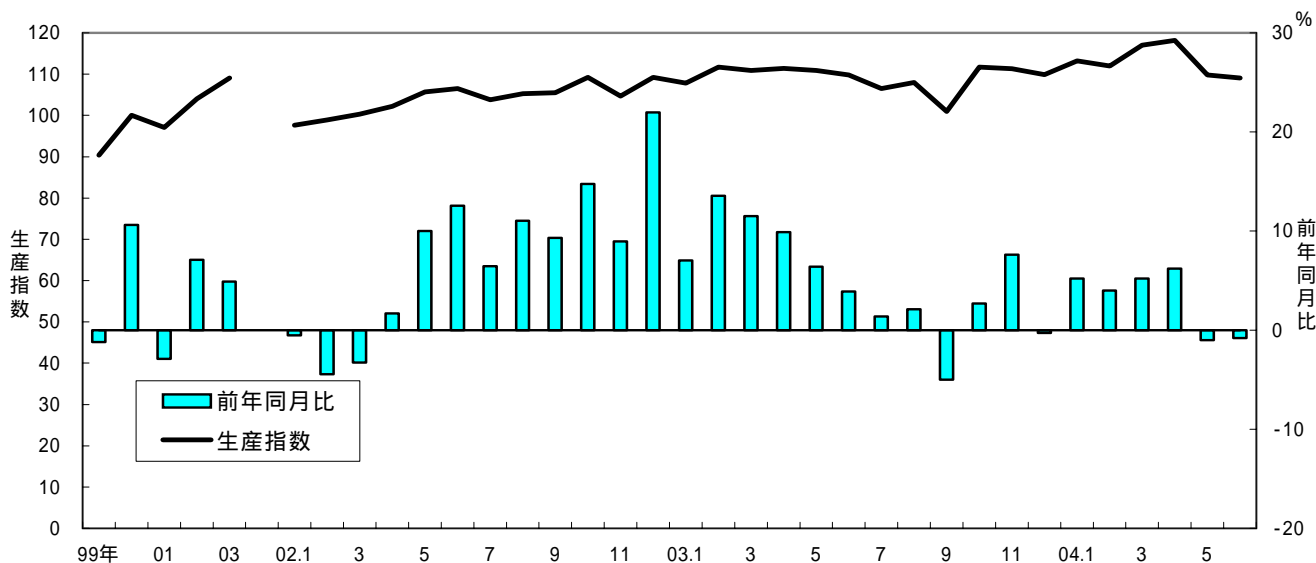
資料:愛知県統計課「あいちの鉱工業」

(鉄鋼業)

2003年の鉄鋼業の生産指数は、109.1で前年に比べ4.9%増となり、2年連続で上昇した。中国等アジア向けが好調な素材産業である「素製品」、「熱間

圧延鋼材」が輸出の高まり、更に自動車関連需要の伸びにより02年後半から増加幅が拡大し、03年に入っても増加基調が続いたが、年後半からは、増加幅が減少した(図表6-12)。

図表6-12 鉄鋼の動向



資料:愛知県統計課「あいちの鉱工業」

（窯業・土石工業）

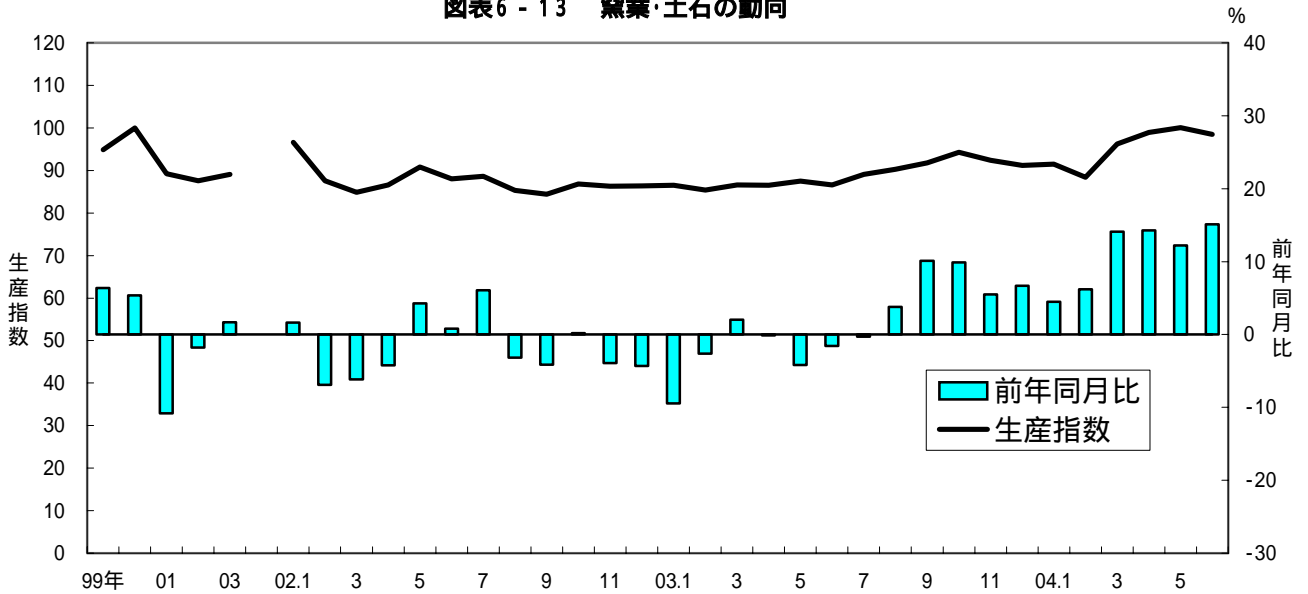
窯業・土石工業の2003年の生産指数は89.1で、前年に比べ1.7%の上昇で、3年ぶりに上昇に転じた。

このうち、陶磁器については、タイル等の住宅関連部門が、住宅着工件数の減少に加え海外製品との競争も厳しく減少を続けている。また、食卓用品に

ついても低価格量産品の輸入増加により、厳しい状況が依然として続いている。（図表 6 - 1 3）

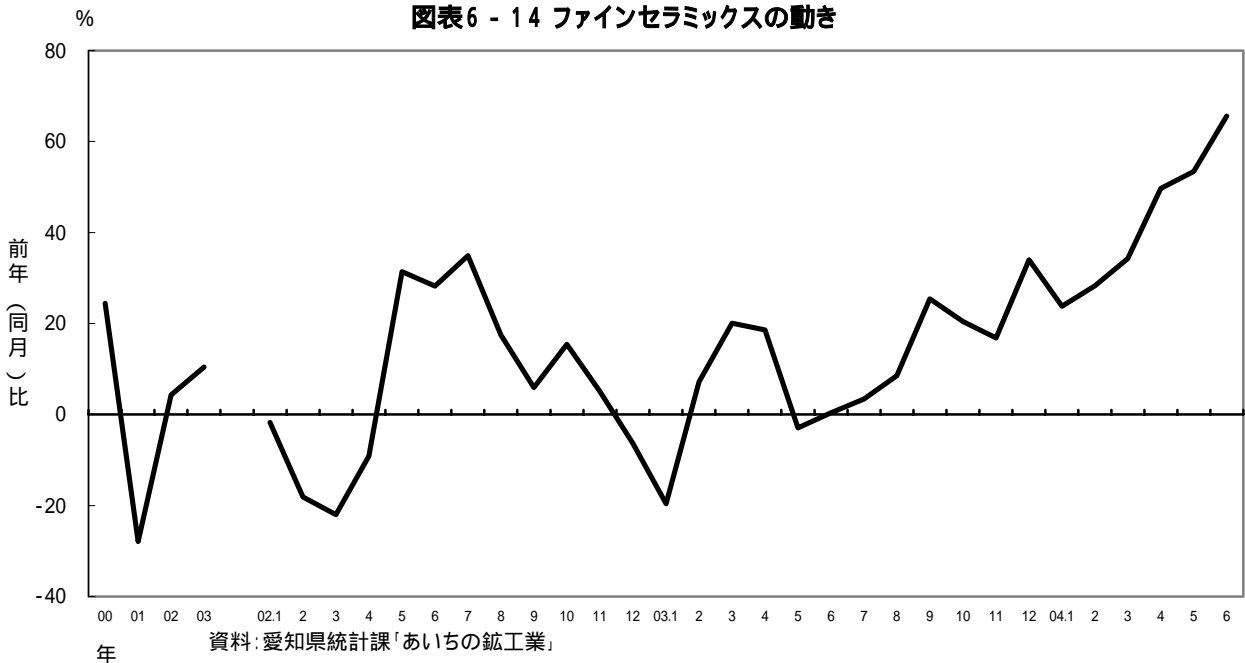
一方、ウエイトの高いファインセラミックスはITバブル崩壊により、01年前年比27.9%の大幅減と急速に落ち込んだが、02年、03年と主に自動車の生産回復に伴い、前年比4.3%増、同10.4%増と比較的堅調に推移した（図表 6 - 1 4）。

図表6 - 13 窯業・土石の動向



資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

図表6 - 14 ファインセラミックスの動き



資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

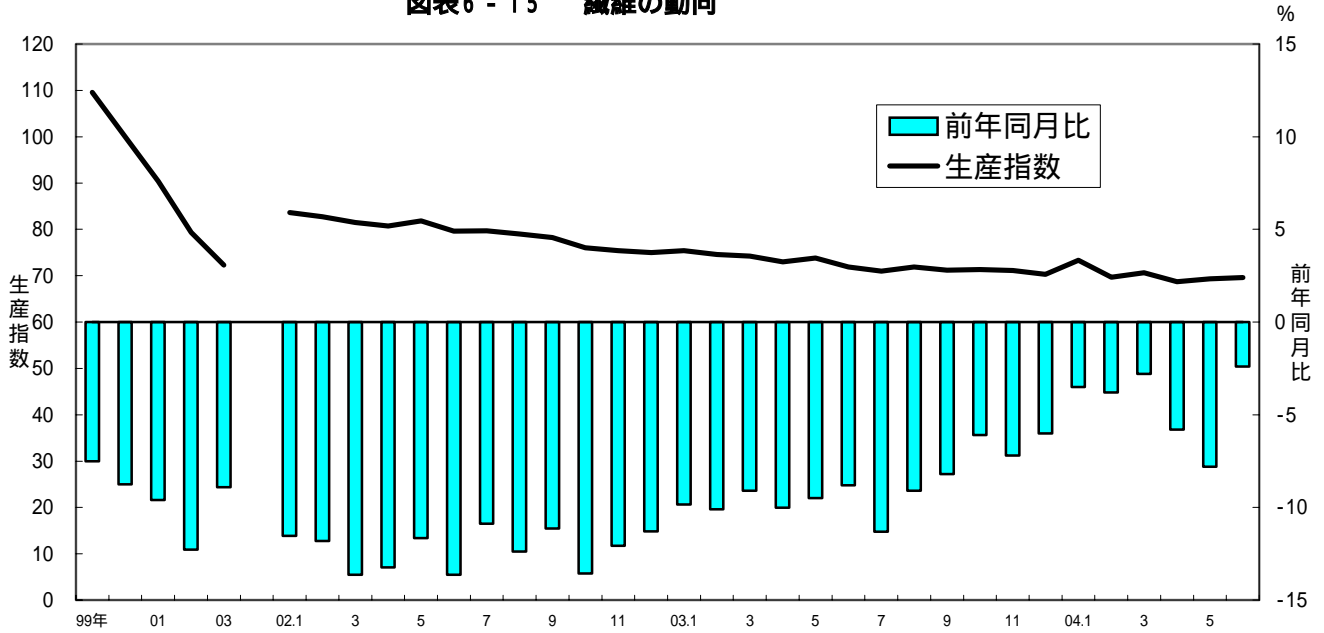


(繊維工業)

2003年の繊維工業の生産指数は、72.3で前年に比べ8.8%の大幅な低下となった。これは、主に国内需要の低迷等により、化学繊維が前年比6.3%減となったこと、また、ウエイトの高い織物が、海外

からの安価な輸入品の増大、更に個人消費の不振により、前年に比べ9.9%の低下となったこと等によっている。繊維工業は長期にわたり安価な海外製品との競争激化が続き、連続して大幅な減少傾向が依然として続いている(図表6-15)。

図表6-15 繊維の動向



資料:愛知県統計課「あいちの鉱工業」